

イギリスの湖水地方は北イングランド西側にあり、ロンドンからは列車で3時間程です。産業革命の頃に栄えた街マンチェスターに近く、綿織物で富を築いたお金持ちの別荘地として発展しました。今でも、独特の石垣で囲まれた家や広い牧草地、そこに群れる羊たちの風景が、心をなごませ、ここだけ時間がゆっくり流れているかのような感じです。

この地の有名人のひとり、1800歳を少し越えたうさぎのピーターラビットです。ピーターの生みの親ビアトリクス・ポッターは、1867年にロンドンで生まれ、両親共に綿織物で成功した資産家の家庭で、何不自由なく育ちました。ビアトリクスは、夏の3カ月の休暇に家族と過ごした湖水地方の別荘がすっかり気に入り、後にここに移り住むほど湖水地方に愛着を示しました。



イギリスの湖水地方

動物好きの彼女が自費出版した最初の本「ピーターラビットの話」が大ヒットとなり、その後いろいろな動物を主人公にした彼女の本が出版されました。この本の成功で手に入れた最初の家が湖水地方にあり「Hill Top」と呼ばれ、現在は資料館として一般公開されています。

この家の様子は絵本のいたるところに描かれています。本の中でエプロン姿のねずみが下を走る飾り棚は、100年たった今でもそこに残っていて、絵本の世界に入り込み、自分も登場人物になったような気分になります。

この「Hill Top」のスタッフの話してくれました。「亡くなった時、をそのまま残してほしいというのがポッターさんの遺言でした。彼女はちょっと散歩に出かけて家にいないだけだと。だから、窓のカーテンは彼女が亡くなった時の冬用のままで。本の中に出てくるこの部屋の窓は、夏には夏用のカーテンに変わりますが、ここはこれからもずっと冬のカーテンです。まるで時間が止まってしまったかのように。」

今日も、時のない絵本の世界でピーターラビットたちと会おうと、世界中からファンが訪れます。

●イツコ・オルストン「イギリス在住10年、スコットランドの観光地ガイドとして、日本人旅行者を案内する。イギリス全体のガイドも担当。通訳・翻訳の仕事もこなす。」